



■ 新任のご紹介 ■

リハビリテーションセンターでは3月より新しく2名の看護師が勤務することになりました。ご挨拶させていただきます。コロナウイルスの影響で落ち着かない日々が続きますが、職員一同、一生懸命取り組んでいきますので今後とも何卒宜しくお願い致します。

◇ 嶋邨(しまむら)看護師



みなさん初めまして。3/4からA4病棟より異動となりました嶋邨と申します。入院中にお会いした方もいらっしゃる、少し安心しております。

デイケアに来たことで、「患者さん」としてお会いしていた方が、「利用者さん」として退院された後、元気に過ごされている姿を拝見することができ、とてもうれしく感じております。今後は皆さんの日常を支えていけるよう、頑張っていきたいと思っております。これからよろしく宜しくお願い致します。



嶋邨看護師(左)と佐藤看護師

◇ 佐藤 看護師



3月からリハビリテーションセンターに配属になりました看護師の佐藤です。

これまでC4病棟で勤務していました。現在はデイケアで行われている様々なプログラムに参加させていただき、プログラムの内容はもちろん、参加されているメンバーさんのお名前も少しずつ覚えていくところです。デイケアの環境に早く慣れ、皆さんの生活をサポートできるように頑張りますので、これからよろしくお願ひします。

■ 世話人親子のやさしい時間 ■



不安や悩みを抱えながら子の障害に寄りそうのは、会員の方も世話人も同じです。そんな親子時間を過ごす中で、子の成長や意外な一面を知るのはことのほか嬉しいもの。

「世話人親子のやさしい時間」は世話人だけが知っておくにはもったいない、こころに響く話を集めました。話の中には発達障害への気づきやヒントが満載です。



～ 世話人 Tさんの娘さんの話 ～

Tさんの娘さんは、こころが不安定になると、気持ちを落ち着かせるため壁や物を壊す、という行為を長年繰り返していました。でもその行為は、一緒に暮らす家族にとってはつらいもの。そのことについて本人と話し合っても、一向に変わりません。障害だから変わることはない、とTさんも受け止めていました。

そんな娘さんに転機が訪れたのはグループホーム入所のため、数か所を見学に行った時のこと。ある1カ所の部屋が切り傷だらけだったそうです。それを見た娘さんは、Tさんに初めてこう言いました。

「実家の壁を壊して、ごめんなさい」



Tさんは言います。

「今までの行為を家を離れることで、娘は客観的に見られるようになったのかな」
そしてグループホームに入ったからこそ、

「家族だけではなく、色々な場所や人と関わることで、障害があっても本人は成長すると感じています」

そう力強く話すTさん。だからといってすべてが好転する訳にはいかないのが、この障害のむずかしい所。

「大きかったり小さかったり、娘の体調や機嫌の波はありますが、グループホームに住み、さまざまな人と関わることは、親子に大きな気づきを与えてくれました」

笑顔で話してくれたTさん。この話には学ぶべきものが多いと思いませんか。



～ 世話人 Kさんの息子さんの話 ～

今、人気のテレビ番組「チョコちゃんに叱られる」を観ている人は、会員の方にも多いのではないのでしょうか？

この番組は間違った回答でチョコちゃんに叱られた後、専門家による詳しい解説が入ります。

その日のチョコちゃんの質問に「？」マークのKさんでしたが突然、一緒に見ていた息子さんが「これはこうだから」と、専門家顔負けの解説を始めました。それはとても深い知識でKさんは思わず、「何でそんなことを知ってるの？」と息子さんに尋ねると、

「前に気になって勉強したから」



Kさんは言います。

「興味のある分野を徹底的に調べ、取り入れる姿勢にはいつも驚かされます。これも発達障害の特性のひとつなのかな」

Kさんの息子さんは料理も得意で、そのお味はとても美味しいのだとか。専門知識が豊富で、料理も得意だなんて、カッコいい息子さんですよ。



～ 世話人 Oさんの息子さんの話 ～

Oさんが大きな病気で入院した時のこと。

入院すると治療だけではなく、保険や行政の手続きなど、役所への煩雑な申請が押し寄せ大変です。入院中のOさんにも、役所に申請する案件がたくさんありました。けれども入院中の

身なので動けません。父子で暮らす O さんの周りに親戚はおらず、動けるのは息子さんのみ。役所への申請は健常者でもハードルが高いもの。手続きのため、あちこちの課を行ったり来たり。最後の最後に必要な書類が足りなくて申請ができない、なんてことも。

けれども O さんは、何度も息子さんと役所に行った経験から、思い切って彼に申請をお願いしました。もちろん、どの課にまず行くのかと事前に詳しく説明して。

その結果、複雑な申請を息子さんはひとつも間違えずに、たった一人でやり遂げたそうです。O さんは言います。

「いやー、出来ると思っていなかったからビックリ、驚きました。他にやる人がいない、という切羽詰まった状況もあったと思います。本人には『出来ない』と思っていたことは、案外『出来る』ことなのかもしれません」そして、

「親がなんでもやるのではなく、自分でやらせることが大事なのかな」



障害だから出来ない、と決めつけることが実は子の成長を妨げていた、なんてことがあるのかもしれない。頭でっかちにならず、先回りせず、子に寄り添いたいものですよね。O さんの言葉には気付かされる点が多いです。



～ 世話人 I の息子の話 ～

最後に世話人 I の息子の話です。息子が一人暮らしはじめて数年が経ちました。「家を出る」と言われた時、心配事はたくさんありましたがその中でも一番は「朝起きられないこと」でした。息子は睡眠障害があり、寝起きをコントロールできないのはしょっちゅう。だから実家では親が起こすことが当たり前になっていました。

ものは試しだ一人暮らしも一度やってみよう、と送り出したもののどうなることやら。親としては不安のつる日々でしたが、意外や意外。いつの間にか自分で起きられるように。どうしてできるようになったのかを本人に聞いてみると、

「ゴミが出せないのが嫌だから」



と意外な答えが返ってきました。なんでも朝早く収集車が来て、出せなかったゴミが部屋に異臭を放ったのだとか。それがあまりにも嫌で起きてゴミを出すようになった、と言います。

親がいくら声を掛けても、実家では自分から起きることがなかった息子。何事も経験しなければ変わらないんだな、ということを学んだ一件でした (R. I)



■ 会費振込のお願い ■



この会報誌は「烏山東風の会」に入会している方にお配りしています。4月より新しい年度になりますので、新年度の会費につきまして1年分6000円、または半年分3000円を、以下のいずれかの銀行口座にお振り込みいただくようお願い申し上げます。

① 三菱東京UFJ銀行 永福町支店 (普) 0106550

「烏山東風の会 会計 黒田邦夫」

② ゆうちょ銀行 記号・番号：10000-29576521 「烏山東風の会」

お問い合わせ：黒田邦夫 090-4173-7604



■「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

～何でもお話下さい。心の壁紙の色と模様を替えてみませんか～

会員の皆様へ

会長 河口 央商

新型コロナウイルス感染拡大による非常事態宣言が発出され、当事者を抱えながら不安と緊張が続く日々をお過ごしのことと存じます。ご多間に漏れず、東風の会の活動についても縮小を余儀なくされております。今後の活動形態は次のようになりますので、ご了承下さい。

1. 会報誌の発行は今までどおり継続する。
2. 非常事態宣言が解除されるまで、次の活動は中止する。
イ)世話人会議 ロ)女子会 ハ)家族相談会 ニ)喋り場
ホ)東風の会主催の講演会



最新情報は烏山東風の会ホームページをご覧ください。

●東風の会ホームページアドレス：<https://www.kochinokai.com/>

デイケア写真館

新年度となり、皆様いかがお過ごしでしょうか。

春は異動の季節ですので、色々変化があった方も多いと思います。

3月24日にデイケアでは、新しいスタッフさんが異動で配置となり、歓迎のために花見や歓迎会を企画致しました。

ただ、花見は新型コロナウイルスの感染拡大のため、病院近くの公園に少しだけ滞在するという形になりました。

東京都知事から、散策での花見を自粛する様に言われる前でしたので、可能でした。

本来なら、井の頭公園にお弁当を持っていく予定でした。自粛という形になりましたが、来年こそはお弁当を持って出かけたかったです。

花は満開の少し手前で、早咲きの桜もあり、その木は桜吹雪でとても綺麗でした。

又、休校中のため子ども達も多く来ていて、少しだけ遊具を子ども達から借りて楽しんだ人もいました。

(NK)

